

# 問屋町 第91号

## すこ 健やかLetter

発行日：2024年2月20日 発行元：協同組合青森総合卸センター

2月も暖かい日が続き、問屋町の積雪もほとんどなくなりました。春はもうすぐそこまで来ているようです。今号は、加齢とともに発症しやすく失明の原因にもなりうる「緑内障」についてお伝えします。

### 失明の原因第1位！



### 緑内障早期発見の重要性

緑内障は、目から入った情報を脳に伝える視神経が何らかの原因で障害されて起こる病気です。一度障害された視神経は元には戻らないため、欠けた視野を元の状態に戻すことはできません。

症状に気がついたときには緑内障がすでに進行している可能性があり、放置すると失明につながる可能性があります。

緑内障は治らない病であり、進行を抑制することしかできません。そのため、早い段階で治療を始め、できるだけ進行を食い止めることが大切です。



### 早期発見・早期治療のための2つのポイント

- ① 緑内障の主な症状は、「視野がぼやける」「視野が欠ける」「視野が狭くなる」です。しかし、これらの症状が現れている時には緑内障がすでに進行している可能性があるため、症状を自覚したら早めに受診して治療を始めましょう。
- ② 緑内障の原因として最も多いのは「加齢」だと言われています。早期発見のためには自覚症状がなくても40歳を過ぎたら眼科で定期的に検査を受けることが大切です。早期に発見して適切に治療を受ければ、生涯視野と視力を保てます。

詳しくは裏面をご覧ください。

# 緑内障の原因と症状

## 緑内障の原因



緑内障は、加齢や近視、眼圧の上昇に関連した視神経の異常によって引き起こされます。中でも加齢が最も多く、加齢による視神経細胞の減少や隅角の変化が影響されると考えられています。



## 緑内障の見え方

はじめは、視野の一部が欠けて見え、徐々に欠けた部分が増加し視野が狭くなります。片目に欠損部分があっても、反対側の目で補ったり、欠けた部分を脳の働きで補うことがあるため、異常に気付かず失明してしまうケースもあります。

一度欠けた視野は元に戻すことはできないため、自覚症状がなくても早期発見のためには定期的な検診が大切です。

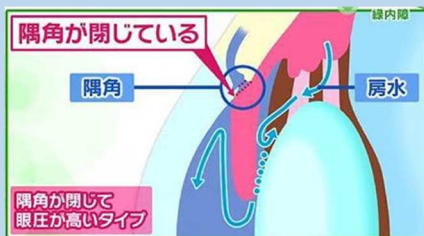


## 緑内障の主な3つのタイプ

げんぱつへいそくぐうかく

### 1. 原発閉塞隅角緑内障

隅角が閉じていて眼圧が高いタイプ



げんぱつかいほうぐうかく

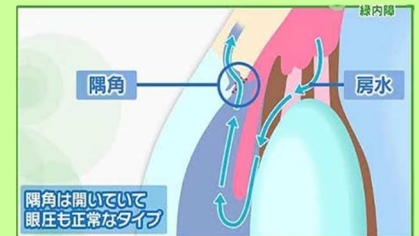
### 2. 原発開放隅角緑内障

隅角は開いているが、隅角付近の組織が目詰まりを起こし房水が流れにくく、眼圧が高いタイプ



### 3. 正常眼圧緑内障

隅角が開いていて眼圧が正常なタイプ



日本人の緑内障の7割を占めているのが「正常眼圧緑内障」です。眼圧が正常範囲にあっても、その人の視神経にとっては障害されるには十分高い眼圧だということです。

## 進行を抑えるための治療の進め方

緑内障の治療は、「薬物治療」「レーザー治療」「手術治療」によって眼圧を下げることを目指します。

病気の進行速度と患者さんの年齢などからどの程度まで眼圧を下げるか目標を決めて経過を見ながら治療を進めていきます。



### レーザー治療

レーザーを隅角に当てることで目詰まりを解消して房水を排出しやすくする。

### 薬物治療

眼圧を下げる目薬（点眼薬）の使用。

治療の経過を見て治療方法を変更したり追加したりします。



### 手術治療

眼球の一部を切開することなどで房水の排出を促す。